区民の声を施策に

足立区議会議長　ただ太郎氏

新たな変貌遂げる年

――あけましておめでとうございます。新年を迎えての議長としての抱負をお聞かせください。

ただ太郎議長　おめでとうございます。今年は特に足立区の東側の開発が実を結んでいく年になります。綾瀬駅東口駅前交通広場が供用開始します。同時に隣の北綾瀬駅でも、交通広場とショッピングモール「ららテラス北綾瀬」が開設予定です。そのほかのエリアデザインもさまざまあります が、そういった開発のなかで大きな注目になるのはないかと。今年は巳年、蛇は脱皮をしますから足区もまた一つ脱皮をして、新たな姿を遂げていく年になると、区民の皆様も期待していただきたいと思います。あとはやはり健康が一番。心と身体の健康、心豊かにお過ごしいただけるような環境づくりが、今求められていると思います。スマホやパソコンを開けば、SNSなどで非常に華やかな世界が広がっていますが、あのようなものだけを軸として考える世の中というのはちょっと違うんじゃないかと。子どもたちのSNS利用についても考える時期であると…。そういったことも含めて、心の健康、身体の健康、健全な区政運営、当たり前のことですが。

――健康についても心がけていることはありますか。また、区政について気になる点などは。

日頃から早寝早起きを心掛けていますが、サウナに入ることが好きですね。そこで目をつむって色々と考える。一日の中で立ちまってゆっくり考えるという時間がなかなか持てないので。それに布団に入ってから考えごとをすると、眠れなくなるので。区政の取り組みについては、色々な施策をこれまで打ってきておりますが、今現在、物価高騰対策が気になります。

――お米も高くなりましたし、区民が危機感を持っているようですが。

足立区としては、国や東京都の物価高騰対策にプラスして、区独自で上乗せをして支援をしていく。これまでもスピード感をもって、また新たに、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金にメニューを追加して、区民の皆様の支援に議員も役所もご一体となって進めていくところです。ただ忙しいだけでは なく、例えばキャッシュレスの決済20％還元、レシートを集めて商品券をお渡しする試みもしています が、どういう経済波及効果があったのかをしっかり検証することが大事だと考えています。その上で、まだ続けるのか、それとも別の支援を手厚くしたほうがいいよね、などと毎回ブラッシュアップしないといけないと考えています。時代によってニーズや考えも変わるので、役所も議会も敏感に、区民の皆様方の声を聞いていくことをもっとしていかなくてはいけないと思っています。

やっぱり足立が好き

――やはり声を聞かないとなんですね。また、足立区の自慢できるところや改善したいところなどあれば。

逆にお聞きしたいです。自慢できるところ、どんなところがありますか。

――東西南北、中央と地域性がありますが、みんなそれぞれ違うように感じます。

そうですね。住んでいる方がそれぞれ、生活環境も違いますから、それぞれが思っているいい所が足区の自慢だろうと考えています。私なんかは生まれも足立区の墨田区を ネットで見ると、正直ムッとします。それで「やっぱり足立区」と再認識しました。自慢はいっぱいあります。公園が多い、緑が多いとか。それにカッコつけずに本音で生きる感じがする。そういう目で見えないものの強さというのは、足立区の自慢できるところではないでしょうか。

――目で見えない？

目に見えるものの、存在するものは必ず壊れますから。目に見えない、区民の一所懸命さとか、格好つけず強いところ。決してきらびやかな地域ではありません。足立区は、そういった時代も地域への愛情はもちろんのこと、区民としての表現しづらいですが、仲間意識というか絆は本当に強いと思います。地元が大好きですしね。

投票率向上に向けて

――最後に議会についてなど、何かございましたら。

まず投票率の向上です。約50％というのは低い。東京23区で最下位ですね。何ぶんというよりも、全体の中で投票率が低いということから脱しないといけないと思っています。選挙に行かない理由の分析をしないといけないと思っています。選挙とは別に区議会事務局が、もう少し踏み込んで、どういう経済波及効果があったのかを しっかり検証することも大事だということです。区民の味方として、区民を守る。そういう足立区議会として区政運営をしていきます。

――最後に座右の銘がありましたら。

座右の銘ってあまり人に言うものではないと思っていますが…一人にしてもらいたいと思うことはみんなにもしなさい」。いつも心の片隅に置いています。

区制100周年に向け

足立区長　近藤やよい氏

防災戦略課を新設へ

――おめでとうございます。本年もよろしくお願いします。昨年の元日の能登半島地震はショックでしたね。

近藤やよい区長　よろしくお願いします。本当に。しかも間髪入れずに9月には大水害。今までは地震と水害、個別に災害対策の訓練を練ってきましたが、複合災害に備えた視点が不可欠だと思い知らされました。特に足区の場合は堤防が弱く、四方を川に囲まれているので。発災直後には縦長たちが能登に向かいました。また改めて東日本大震災の被災地にも赴きました。現場でどんなことが起こったのか、起こっているのかをつぶさに確認して、それを今、区の防災計画に落とし込んでいる最中です。災害対策課については、令和7年度に編成を大幅に変えます。被災時のTKB「トイレ・キッチン（温かい食事）・ベッド」。特にトイレについては、被災した直後から、1週間は、被災者が避難所生活を送りくらべる問題が深刻化します。停電や断水で水が流れなければ、こと自宅の避難生活にも支障が生じます。そのため、避難所のトイレ対応と在宅避難のトイレ問題等に総合的に取り組む担当部を新設します。新年度から「災害時トイレ計画担当保長」を新設するとともに、新たに「防災戦略課」を立ち上げます。「何を最優先やらなければならないのか」を考え、より機動的に動けるような体制をと。災害についてはさらに充実強化します。

新しい基本計画策定

――ではあらためて、令和7年の展望を。

令和14年度には区制100周年を迎えます。今年7年度は、そこへと繋ぐ新しい基本計画がスタートします。大きな節目の年になります。基本計画は、教育、福祉、まちづくりなど様々な分野別計画の大元となる計画で、この基本計画から各個別計画へと派生していくので、まさに「扇の要」の計画です。令和14年度に向かって、どんな足区に向かっているのかという羅針盤、航海図です。もちろん基本構想「協創力でつくる活力あふれ進化し続けるひと・まち 足立」は変わりませんが、100周年に向かって区として何を一番のキーワードにしていくのか。たとえばSDGs未来都市として国に選定された、綾瀬の「あやセンターぐるぐる」の活動。「アヤセ未来会議」のメンバーを中心に、「やってみたいこと」を後押しする）というコンセプトで活動しています。わずか1年間に、100以上のやりたいことが実現して形になった。そこに関わった人たちは、ほとんどが今まで足区政に関わりがなかったり薄かったりした方々です。これまでは足区政というと、最強の八ーパーナーは町会・自治会をはじめとする区内の諸団体でした。これからも、今まで全く関わりがなかった方々が「あやセンターぐるぐる」を拠点にして、自分の夢を叶えるということに一歩踏み出してくださった。これは非常に大切だなった。これは世界の塚。これから10年20年のスパンで、区内で一番まちが変わるのは竹の塚ではないでしょうか。もう1つは江北。日暮里・舎人ライナー沿線は、東京女子医科大学附属足立医療センターが開院し、「住んでいるだけで自分の健康になるまち」をコンセプトにしましたけれど、今、コロナがフラッシュバックしてきましたが、今後はスポーツ施設もできますし、今年の春にはJ1に昇格するアンポーツ・ビレッジ（仮称）が、もう少し踏み込んで、どういう経済波及効果があったのかを しっかり検証することも大事だということです。区民の皆様方の声を聞いていくことをもっとしていかなくてはいけないと思っています。

まちづくりは西側に

――では、区民の大きな関心があるまちづくりについて。綾瀬や北綾瀬など形になってきましたが、他の地域はどうでしょう。

今までは千住や綾瀬、北綾瀬を拠点にスポットが当たっていましたが、これからはいよいよ西の時代です。まずは竹の塚。これから10年20年のスパンで、区内で一番まちが変わるのは竹の塚ではないでしょうか。もう1つは江北。日暮里・舎人ライナー沿線は、東京女子医科大学附属足立医療センターが開院し、足立医療センターが開院して、「住んでいるだけで自分の健康になるまち」をコンセプトにしましたけれど、今、コロナがフラッシュバックしてきましたが、今後はスポーツ施設もできますし、今年の春にはJ1に昇格するアンポーツ・ビレッジ（仮称）が、鹿島アントラーズ、ホーム、ビッグ、ビッグ、ビッグ